

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第61回 ビジネス文書実務検定試験 (30. 11. 25)

第1級

速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔書式設定〕

- 1行の文字数を30字に設定すること。
- プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

第61回 ビジネス文書実務検定試験 (30. 11. 25)

第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

我が国は、森林の面積が国土の7割ほどを占めている。この割合は、国連食糧農業機関（FAO）の資料によると、先進国の中で高いものである。森林は、主に天然林と人工林に分けられる。日本においては4割ほどが人工林であり、その中でスギが多くを占めている。スギ花粉は春になると飛散して、アレルギーを引き起こす原因になっている。

この20年間で、花粉症の患者は増加している。その原因としては、戦後の植林政策が考えられる。復興や経済成長などによって、木材の需要が急速に高まった。そのため、ほかの木と比べて成長が速く利用に適しているということで、スギが数多く植えられた。その後、木材輸入の自由化がスタートして、林業が衰退し伐採されなくなった。スギ花粉は、樹齢30年頃から飛散を始める。近年、その時期を一斉に迎えたため、花粉が増えてしまった。

こうした状況から、国や東京都などは、花粉が少ない品種への植え替えを促進している。この対策は、仮にすべての植林地で行ったとするとかなりの時間を要する。そのため、林野庁では植え替えと並行して飛散防止剤の開発も進めている。これは、スギの雄花だけを枯らすカビを活用したものだ。実用化すれば、すでに花粉を飛ばしている成木に効果を発揮することになる。

現在、林業の担い手不足から多くの植林地は荒廃し、樹木の生育が悪くなっている。これは、二酸化炭素の吸収力が下がったり、強く根が張らずに地盤が弱くなったりする原因になりかねない。本来スギは加工しやすく、断熱や調湿にも優れ、日本の家屋に適している。うまく育てつつ継続的に伐採して活用することが、花粉症だけではなく、環境にも有益な手立てとなるであろう。